

平成 24 年度林業研究所の試験研究評価

林業研究所試験研究評価実施要領に基づき、平成 24 年度に実施した林業研究所試験研究評価委員会の内容は次のとおりでした。

委員

- ・ 三重大学名誉教授
- ・ 建築設計士事務所代表取締役
- ・ 林業経営者
- ・ 三重大学生物資源学部講師 の 4 名

1. 平成 24 年度第 1 回試験研究評価委員会

開催日：平成 24 年 9 月 20 日（火） 場所：林業研究所

内容：事前評価及び中間評価

1) 委員長選出

委員会運営内規に基づき、委員の互選により、委員長に三重大学名誉教授が選出されました。

2) 評価対象課題

事前評価及び中間評価課題とも、研究担当者がプレゼンテーションを行い、質疑応答のあと評価方法内規に基づき 20 点満点で採点されました。平均点が 12 点を下回るものについては、林業研究所長が研究課題の不採択、中止及び計画の変更等を検討することになります。評価対象課題と評価結果及び出された意見は以下のとおりです。

(事前評価)

①低密度植栽のヒノキ林における初期育林コストの低減に関する研究 評価平均点 16.00 点

出された意見：常に標準施業と低コスト施業との対比を意識し新たな手法の開発を

テーマとしてはどうしても必要なものと思う

下刈りをいつ何回行うのかを知るためには、グループ分けした雑草のデータ取りを検討すること

調査点数を増やすため、研究所以外の力を借りることを検討してはどうか

②木質チップの含水率推定法に関する研究 評価平均点 14.00 点

出された意見：原料に樹皮を含むかどうか、樹種などの因子とに分けて進めて欲しい

現場で簡易に計測できるのはよいが、ある程度の精度がえられる換算表も望まれる

誤差はチップの形状・つめ方だけでなくバケツのサイズにも依存すると思われるので確認して欲しい

条件の違いによる差が気になるので、重量以外の要素も組み合わせはどうか

③オオイチョウタケ施設栽培技術の開発 評価平均点 16.25 点

出された意見：天然物に匹敵するきのこを人工的につくるには自然生育状況の解析は重要

きのこの生活史の環境応答性自体に興味を持った、期待している

技術開発と普及に向けた取組を進めて欲しい

④低エネルギー消費型きのこ栽培システムの開発 評価平均点 16.25 点

出された意見：環境にあわせた育成技術の開発に期待する

低エネルギー消費に絞った研究を期待

(中間評価)

- ①伐採跡地における森林造成技術の開発に関する研究 評価平均点 16.50 点
出された意見：防護柵の効果的な設置方法の開発が望まれる
作成したパンフレットは高く評価できる
とても重要なテーマと思う
- ②間伐促進のための木質資源収穫コスト予測技術の開発 評価平均点 13.75 点
出された意見：間伐材利用拡大のため川下を見つめた詳細な検討が望まれる
因子を増やしたうえで基礎データをもっと取る必要がある
コストを林道からの距離で整理することを願う
テーマは重要であるが、数字が一人歩きしないよう注意が必要
作業システムの分け方は再考が必要
- ③間伐促進のための森林作業道開設支援技術の開発 評価平均点 14.75 点
出された意見：多くのデータより要因を抽出する必要がある
大橋式を下敷きにしつつ検証するとか、基本的なものがあつた方がわかりやすい
作業道の維持に関するデータを集めると良い
- ④尾鷲ヒノキの材色維持に関する技術開発 評価平均点 12.75 点
出された意見：変色防止策と同時に持続性のある変色促進法も検討されたい
紫外線を防ぐ方法とヒノキとの相性では何を施すのが良いのか
UV 吸収剤や顔料の選択基準を示せないのであれば、種類を増やして試験する必要がある
変色ではなく劣化の研究をしてはどうか
- ⑤高周波を利用した効率的な乾燥材生産技術等の開発 評価平均点 15.25 点
出された意見：乾燥方式の相違による乾燥効率の地域性、樹種依存性についても明らかにする必要がある
実験仮説と条件をセットで示してくれるとわかりやすい

2. 平成 24 年度第 2 回試験研究評価委員会

開催日：平成 25 年 3 月 12 日 (火) 場所：林業研究所

内容：事後評価及び事前評価

評価対象課題

事後評価及び事前評価課題とも、研究評価委員会における 4 人の評価委員による評価結果の概要は、以下のとおりです。

(事後評価)

- ①造林初期における保育コスト低減技術の開発 評価平均点 16.25 点
出された意見：困難な点もあるが、森林撫育の最終目標との関連性も知りたい
もう少し経過を見てこの先どの様な成長をするのかを見てみたい
今年度までの研究であるが最も重要な課題であり、これまでの成果を活かすためにも引き続き研究と調査を続けて欲しい
40 年、50 年といった長期のモニタリングが必要。成果の普及には生産される材の材価や病害虫の影響まで考慮するべき
- ②商品化を目指したきのこ栽培技術の開発 評価平均点 17.75 点
出された意見：オオイチョウタケについては、基本である適正培地の選定、発生メカニズムの論

理的な解明を期待する
オオイチョウタケの今後の成果に期待する
成果の普及を期待する
目的と実験デザインが明瞭で良い

③尾鷲ヒノキ材の材色維持に関する技術開発

評価平均点 12.50 点

出された意見：視覚（質感）による評価も取り入れるべき
材色変化が大きくなる波長域とUV吸収剤の耐UV特性を関連づけて追求しては
どうか
目的と方法の整合性がとれていない
目的の設定の仕方によっては良い研究になったと思われる
色や質の好みに関するアンケート調査と組み合わせるとわかりやすいのでは

（事前評価）

① 大径材の有効利用に関する技術開発

評価平均点 14.75 点

出された意見：集成材化したものとの差異（価格、性能等）を明らかにして欲しい
心去り材の特性を活かした技術開発を望む
比較対象の乾燥方法を再検討してはどうか